

具を買入れせしめつつあり近々郡より
限定二百三十九圓の補助交付を道に
申請の客なるが購入費其は箱裝、應
答、初稿白紙他六種百五十八圓なり
と釋法執行 郡中一般に善後獎勵
を爲し居るも尚ほ萬全を期する爲め
來る十五日より五日間各一面一舉に釋
法を果すの望協合理事會 大田寅

工經濟殖産各調査部を設け各分擔する事とせり終りに理事

松崎局宿
 の南氏當選せり。△縣除
 松崎局宿除を七月十八日
 郡内一般に行ひたるが郡
 署より應援し全滅を期し
 購辦にて二期強及び降
 爲の生存力弱き等に於て
 成績は國有林六十九町
 七百七十二町、反捕殺數十

[illegible]

論山
▲稻作品評會 道廳
住出し地は群山及び釜山に在り
地は美江^{ミエ}其他湖南線なりと

朝鮮 四十錢 三百十貫 價格二

なりしに申込實數は一千百十三圓
四錢の多額に上れり ▲製紙好

見當なりと

朝倉外氏(同上) 大邸に出張中の様
日朝歸京

萬三千本に達せるが本年

北へく 苦力の旅行 今朝の秋 大虎

の等 中にて 便船の有り 次第長

尚委の穂垂れ搖れく登の臨 鳥

[illegible]

	<h1 style="text-align: center;">木 材 の 大 安 賣</h1> <p style="text-align: center;">龍山營林廠 出張所在庫 木材整理の 爲當分の内 下記に如く 大安賣を爲 す 今や公私建 築の最盛期 に迫る希望 者此の機 を逸せず龍 山營林廠出 張所に申込 まるへし</p> <p style="text-align: right;">大正五年八月十三日</p>	<div style="float: right; width: 10%;"> 營業目錄 乾物 海産 雜穀 洗濯石鹼 </div> <div style="clear: both;"></div> <div style="float: left; width: 10%; text-align: center;"> お待 兼の </div> <div style="clear: both;"></div> <div style="text-align: center;"> <h2 style="font-size: 2em;">アイボリー石鹼</h2> <p>漸く着荷。不相變御愛用を願ひます。</p> <h2 style="font-size: 2em;">エブロン石鹼</h2> <p>清冽なる芳香を以て有名。アイボリー石鹼には 芳香なきも共に世界有数の純良石鹼です。</p> </div>
<div style="text-align: center;"> <h3>汽車汽船の 旅行に</h3> <p>切符を要する如く</p> <h2 style="font-size: 2em;">金鷄香水 シル香水</h2> <p>も必要なり</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <h3>朝鮮總督府營林廠</h3> <p>●注　意</p> <p>一車税は約八十尺幅とし噸位は二噸以上（一噸の材積は約四尺幅七十寸）とす。 運送手数料は常設新嘉坡分送の分と同様にし て極めて低廉なり。 注文より一月五十圓以上に限り總て現金貨とす 常設標準價表及路線各埠頭運賃表入用の方 は龍山營林廠出張所に申込さるべし。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ●樹　種 紅松、杉松、栲炭松を主とし其の他イチキ アリ、アラヤ、オシロイ等、胡桃等の硬木も あり。 ●材　種 枕材、板材、小割材、太極等に於いて殊に紅松 及び杉松の四角材が最も五厘板最も多く又各 樹種の三寸五分、四寸、四寸五分の角材も多く 普通の小面、並七、並八、並下及古材にして大 部分は需要廣き並上以下の普通品なり。 ●品　位 普通品に在りては朝鮮總督府特別會計に屬す る官署及木材取引業者には營林廠標準價格の 一割五歩引を以て其の者に同く一割引 を以て販賣す。 ●價格割引 變色等の古材に在りては前項割引の外更に大 割引を爲す。 </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>仁川宮町 京城本町</p> <p>津田兄弟屋支店</p> <p>天津田兄弟屋支店</p> </div> <div style="width: 40%; text-align: center;"> <p>花屏風</p> <p>蓆、茶、雨傘</p> <p>酒、節、蠟燭</p> <p>京東、筆、紙盤</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>仁川新町 金城本町</p> <p>津田兄弟屋支店</p> <p>天津田兄弟屋支店</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>電話七六二番東京口庄三三八番</p> <p>元製造及入檢 内の丸・京東 店番原藤 日丁二町全興源一店支</p> </div>

大發展の美しい九月號出来 毎月一〇日出版 毎冊七角五分
 〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番

トモダチ
 〇風味湧くが大好評の教育繪誌 東京市町一葉社
 〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番

〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番
 〇風味湧くが大好評の教育繪誌 東京市町一葉社
 〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番

總ての點より見て最良最善の繪報雜誌
 幼年畫報
 定価各十二錢
 東京市町一葉社

波小谷巖
 兼の九月號
 定価各十二錢
 東京市町一葉社

幼年世界
 御前口演
 兼の九月號
 定価各十二錢
 東京市町一葉社

小玉吞象
 吉田秀次郎
 高野省三
 水越理庸

藥學講義録
 日本藥學講習會
 東京九の内

日韓版新
 告報版新
 定価各十二錢
 東京市町一葉社

各國時計
 自轉車
 直輸入 喜多金光堂
 銀座口座七八二番

〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番
 〇風味湧くが大好評の教育繪誌 東京市町一葉社
 〇特別附録 前送りプランコ〇樹蘭全國書店 電話番町 四〇五八番

女
趙

『十三』
荒れる
萌兆

[illegible]

手洗室新設、隔離室、普通病室設備 入館注意

「いかにも侮つちや。如何したと云ふのう。最う大抵見にさうなもんぢや。子匠は雙眼鏡をこつて、若うと母が館の方頭を偵察したけれども、只の一人の影にレレンダに入つては居なかつた。

そのうちに聲を野う。やうな處が館の背を走つて、障子を密のやうに立てながら、森と暗き起つてゐた。

「あう、こり、不可ね。此處は母をその凡の行方。曉のて、室所は出さうだ。此處を、此たつ。やいッツツのひひくへん。今に鬼れて来な。」

「向は皆無として鞭打たれたやううに飛たつた。見る／＼夕日の影に壁に吞まれて、今まで閉くる露れ渡つてゐた脚下の平原が、霞霧をもをたやうに朦朧と冥くなつた。

新刊 紹介

▲佛教國民の理想 著者 西田 天宮 博士
第一巻 佛敎の理想 第二巻 佛敎の理想 第三巻 佛敎の理想
神人合衆 著者 西田 天宮 博士 第一巻 佛敎の理想 第二巻 佛敎の理想 第三巻 佛敎の理想
の將者 著者 西田 天宮 博士 第一巻 佛敎の理想 第二巻 佛敎の理想 第三巻 佛敎の理想

八月八日付
 紙に朝軍の警で
 題し楚の生ひ立
 ちを詳述出て居
 りて感嘆を有する
 りました故に驚きに就て依て「楚の生ひ立ち」と
 大膽して居ります 河平全其語を
 鑑の事に關しての記事を掲載せら
 れる事希望に堪いません 吾田都生一
 二、公望を蒙る人の多くなつたの
 を受くるが、黄や日光、雷、雨、風、
 車中、汚穢極まる縮縮の空座の中
 に、得意の西(金)劍を入れたる一見、
 吐と催す様な不潔物を本人はさきと
 切相に自身の服傍のベンチに上せず
 氣の平座で居るのに驚く其の立ち去
 りし跡に腰を掛けたものこそ意に違
 へ千端である車掌のヨボ先生も火の
 ない煙草を口々に喰へ居れば自身
 の袂とまれその腹感せに「電車の中
 で煙草いけません」を言ふが汚穢甚だ
 しい様に見馴れて居るものとて一切

[illegible]

効驗卓絶せ

靈藥

國中將領は醫術

弱き婦人病め

婦人衛

御由

地上の萬物を蘇生する
 弱き御婦人への
 元氣と健康を回復
 實に身心
 生手引
 遠次第無代進呈
 主
 子
 内
 監

大の驟雨

清涼ならしむ
 の服用は
 一の婦人良薬なり
 心して召し上れ
 病の血の道婦人神薬
 炎の腔加答兒白帶赤帶

A black and white illustration of a woman with a serene expression, looking down at a small cup. The cup has the Japanese characters '中野漫' (Chochin) written on it. The woman is wearing a traditional Japanese garment. The background is simple, with some faint outlines of what might be a window or a wall.

葬具一式

造花上生花 花圈 客贈品
裝飾品 其他供養一切
切丁葬 本社的主旨に候間
川倫 奉布上候
京城永樂町二丁目

大葬社

電話一〇五六番

旭町二丁目(京城府廳前)

合社 **京城葬儀社** 二川儀社

來禮泉間自動車客時間

電話九五七番

中河原吉
井上芳太郎

金泉織居自動車支部

金泉電話八八番

船釜山出帆廣告

船名	出帆日	出帆時間
神丸	大阪行	午後五時出帆
神丸	浦通行	午後十時出帆
神丸	浦通行	午後十時出帆
神丸	浦通行	午後十時出帆

電話一五六七番

長女久子儀病
氣の處本日午後一
時四十五分死去致
候に付明十五日午
後六時自宅出棺葬
儀執行可仕候此段
謹告候也

大正五年八月十二日

父清水與作
親戚富士洞然
代總人女荒井初太郎
代總人天日常次郎

葬儀請負

供花御寄贈品一式
京坂本町二丁目(寺)鐘樓

朝鮮葬儀社

電話五七九

○ ○ ○ ○ ○
高相三
○ ○ ○ ○ ○
山田君大
秀神大
○ ○ ○ ○ ○
全盛萬昌
○ ○ ○ ○ ○
錦昌萬

[illegible]

日本郵船出帆	大活牛莊行 九月七日 八月十六日 八月廿七日 九月十日	接入歸出 正午出帆 正午出帆 正午出帆
尼崎汽船出帆	下關神戸大坂行 八月廿九日 八月廿七日 八月十七日 八月十六日 八月十二日 八月十日	四時出帆 四時出帆 四時出帆 四時出帆 四時出帆 四時出帆
朝鮮郵船出帆	釜山 高杉 回濱 高 八月三十日 八月廿四日 八月廿四日 八月十五日	釜山發 釜山發 釜山發 元山發

「いや、野郎さんなからう」
「何うでせうな。お父様、東京は世に下界の水原を穿つて、山も押しぎらん、と白金のやうに輝いて、野しきるの華麗を馳へて。深夜三千尺以上の高處に立つて、この光に打たれた刺棒は、是う輝いても大自然の崇峻に醒はされて恍然となるのである。」
「鶴さん、どうぢや、綺麗なものぢやろう。東京のやうな所に冬籠りをして、緩履にかがりついて居つたんではなか／＼此際景色には見られんぞ失策つたことをした。笠簾器械を持つて来ればよかつたのう。あのカメラでも有れば大きに役に立つんぢやか。」

「アハハ、何を言ひ居る。」
二人がこんなことを語り合つてゐるうちに、殿門も後へ運れた大野勇の一隊が活みぐけになつて到着した。お花柳の押連しと監査官の

「いよいよ、新古今鑑賞會」京城本町一丁目印刷所講義會集録
●古本高麗寶愛 ●一三七八

[illegible][illegible][illegible][illegible]

そのうちに門を野、そんな風か離れて、
の件を走つて、前後を機のように立
ながら、幾んど走り起つてゐた。
「あ、こりや、不可なり。此處はそ
の片の行方を見失つて、突然門を出し
た。北の方、世だろ、やいッ言ひの急
なくへい。今に鬼化を案さん。」
一向は竹笠として鞭打たれたやう
に飛ばつた。見る／＼夕日の影は車
に吞まれて、今まで閉く葉れ渡つ
てゐた脚下の平原が、微緑でもな
いたやうに朦朧と冥くなつた。

新刊紹介

▲佛教國民の理想 文政堂出版
一勝代民衆宗教の義理を説き、佛
師人倫を正さずして國民性を養ふこと
の諸善徳を説く。其の要旨は、佛敎の
主義を取らぬ國民の地位を自覚せよと第一

▲希望の事 四角出版
此の希望は、皆白くせん。再山由生一
に、公望を氣取る人の多くなつたの
を憂ぐる所が、重光先生同門の意
中にて巧み極まる篇讀の空虛の中に
對峙の西宮朝一筆を入れたる一見悲
壯で能く様々不習物を本人はまさ大
胆相に自身の優勝のペンチに上せず
氣の牢座で居るのに驚く其の立ち去
りも跡に腰を掛けたものこそ實に迷
惑千萬である軍装のヨボ先生も火の
ない熱帯草でも目に眩へ居れば自身
の駄まれたる腹臆せに「電車の中で
野草いけません」を言ふのが汚穢甚だ
しい癖は是歸れて居るものとて一切

藥
口
中
婦
人
衛
生
手
引

暑さに悩む弱き御婦人の
元氣と健康を回復し
實に身心を達


國中將は醫學博士諸大家の稱讃せられたる世界唯一の
弱き婦人病める婦人似て非なる寶藥と同視せず安心

主婦
子宮病
内服
炎症

勿申込大第無代進呈
本膏は月経時の手當を始め婦人諸病の

[illegible][illegible][illegible]

早天かんての驟雨しゅうう
 地上ちじやうの萬物ばんぶつを蘇生よみがへら
 効驗卓絶きうけんたつてつせる
 靈れい 中ち 奇き 易い
 ち う じやう たう



中將湯

代總人 荒井 天日
常次郎

葬儀請負

供花御寄贈品一式
京坂本町二丁目 電話五二一番

朝鮮葬儀社
電話五二一番

葬具一式

遺花・生花・花束・客贈品
祭飾品 其他供物一切
親切丁寧 本社の主旨に候間
御川金奉希上候
京坂永樂町二丁目

大葬社

電話一〇五六番

電話一五六七番

[illegible]

『十三』 荒れる前兆

此處からの眺望はそんなに美しく
且つ雄大であつてであらう。

渡邊 默禪

「實南に左様でございますしたわ。こ
の景色、撮して置けば、よいお土産
になりますんですのにねわ。見せて
上げたらござんすわ、お姉様に。」

[illegible]

長女久子儀病氣の處本日午後一時四十五分死去致候に付明十三日午後六時自宅出棺葬儀執行可仕候此段謹告候也
大正五年八月十二日
父清水與作
親戚富士洞然
友荒井切太郎

本月廿七日	接入時出	九月十七日	接入時出
八月廿六日	正午出帆	八月十六日	正午出帆
八月廿七日	出帆	八月十七日	出帆
八月廿八日	出帆	八月十八日	出帆
八月廿九日	出帆	八月十九日	出帆
八月三十日	出帆	八月二十日	出帆
八月三十一日	出帆	八月二十一日	出帆
九月一日	出帆	八月二十二日	出帆
九月二日	出帆	八月二十三日	出帆
九月三日	出帆	八月二十四日	出帆
九月四日	出帆	八月二十五日	出帆
九月五日	出帆	八月二十六日	出帆
九月六日	出帆	八月二十七日	出帆
九月七日	出帆	八月二十八日	出帆
九月八日	出帆	八月二十九日	出帆
九月九日	出帆	八月三十日	出帆
九月十日	出帆	九月一日	出帆
九月十一日	出帆	九月二日	出帆
九月十二日	出帆	九月三日	出帆
九月十三日	出帆	九月四日	出帆
九月十四日	出帆	九月五日	出帆
九月十五日	出帆	九月六日	出帆
九月十六日	出帆	九月七日	出帆
九月十七日	出帆	九月八日	出帆
九月十八日	出帆	九月九日	出帆
九月十九日	出帆	九月十日	出帆
九月二十日	出帆	九月十一日	出帆
九月二十一日	出帆	九月十二日	出帆
九月二十二日	出帆	九月十三日	出帆
九月二十三日	出帆	九月十四日	出帆
九月二十四日	出帆	九月十五日	出帆
九月二十五日	出帆	九月十六日	出帆
九月二十六日	出帆	九月十七日	出帆
九月二十七日	出帆	九月十八日	出帆
九月二十八日	出帆	九月十九日	出帆
九月二十九日	出帆	九月二十日	出帆
九月三十日	出帆	九月二十一日	出帆
十月一日	出帆	九月二十二日	出帆
十月二日	出帆	九月二十三日	出帆
十月三日	出帆	九月二十四日	出帆
十月四日	出帆	九月二十五日	出帆
十月五日	出帆	九月二十六日	出帆
十月六日	出帆	九月二十七日	出帆
十月七日	出帆	九月二十八日	出帆
十月八日	出帆	九月二十九日	出帆
十月九日	出帆	九月三十日	出帆
十月十日	出帆	十月一日	出帆
十月十一日	出帆	十月二日	出帆
十月十二日	出帆	十月三日	出帆
十月十三日	出帆	十月四日	出帆
十月十四日	出帆	十月五日	出帆
十月十五日	出帆	十月六日	出帆
十月十六日	出帆	十月七日	出帆
十月十七日	出帆	十月八日	出帆
十月十八日	出帆	十月九日	出帆
十月十九日	出帆	十月十日	出帆
十月二十日	出帆	十月十一日	出帆
十月二十一日	出帆	十月十二日	出帆
十月二十二日	出帆	十月十三日	出帆
十月二十三日	出帆	十月十四日	出帆
十月二十四日	出帆	十月十五日	出帆
十月二十五日	出帆	十月十六日	出帆
十月二十六日	出帆	十月十七日	出帆
十月二十七日	出帆	十月十八日	出帆
十月二十八日	出帆	十月十九日	出帆
十月二十九日	出帆	十月二十日	出帆
十月三十日	出帆	十月二十一日	出帆
十一月一日	出帆	十月二十二日	出帆
十一月二日	出帆	十月二十三日	出帆
十一月三日	出帆	十月二十四日	出帆
十一月四日	出帆	十月二十五日	出帆
十一月五日	出帆	十月二十六日	出帆
十一月六日	出帆	十月二十七日	出帆
十一月七日	出帆	十月二十八日	出帆
十一月八日	出帆	十月二十九日	出帆
十一月九日	出帆	十月三十日	出帆
十一月十日	出帆	十一月一日	出帆
十一月十一日	出帆	十一月二日	出帆
十一月十二日	出帆	十一月三日	出帆
十一月十三日	出帆	十一月四日	出帆
十一月十四日	出帆	十一月五日	出帆
十一月十五日	出帆	十一月六日	出帆
十一月十六日	出帆	十一月七日	出帆
十一月十七日	出帆	十一月八日	出帆
十一月十八日	出帆	十一月九日	出帆
十一月十九日	出帆	十一月十日	出帆
十一月二十日	出帆	十一月十一日	出帆
十一月二十一日	出帆	十一月十二日	出帆
十一月二十二日	出帆	十一月十三日	出帆
十一月二十三日	出帆	十一月十四日	出帆
十一月二十四日	出帆	十一月十五日	出帆
十一月二十五日	出帆	十一月十六日	出帆
十一月二十六日	出帆	十一月十七日	出帆
十一月二十七日	出帆	十一月十八日	出帆
十一月二十八日	出帆	十一月十九日	出帆
十一月二十九日	出帆	十一月二十日	出帆
十一月三十日	出帆	十一月二十一日	出帆
十二月一日	出帆	十一月二十二日	出帆
十二月二日	出帆	十一月二十三日	出帆
十二月三日	出帆	十一月二十四日	出帆
十二月四日	出帆		